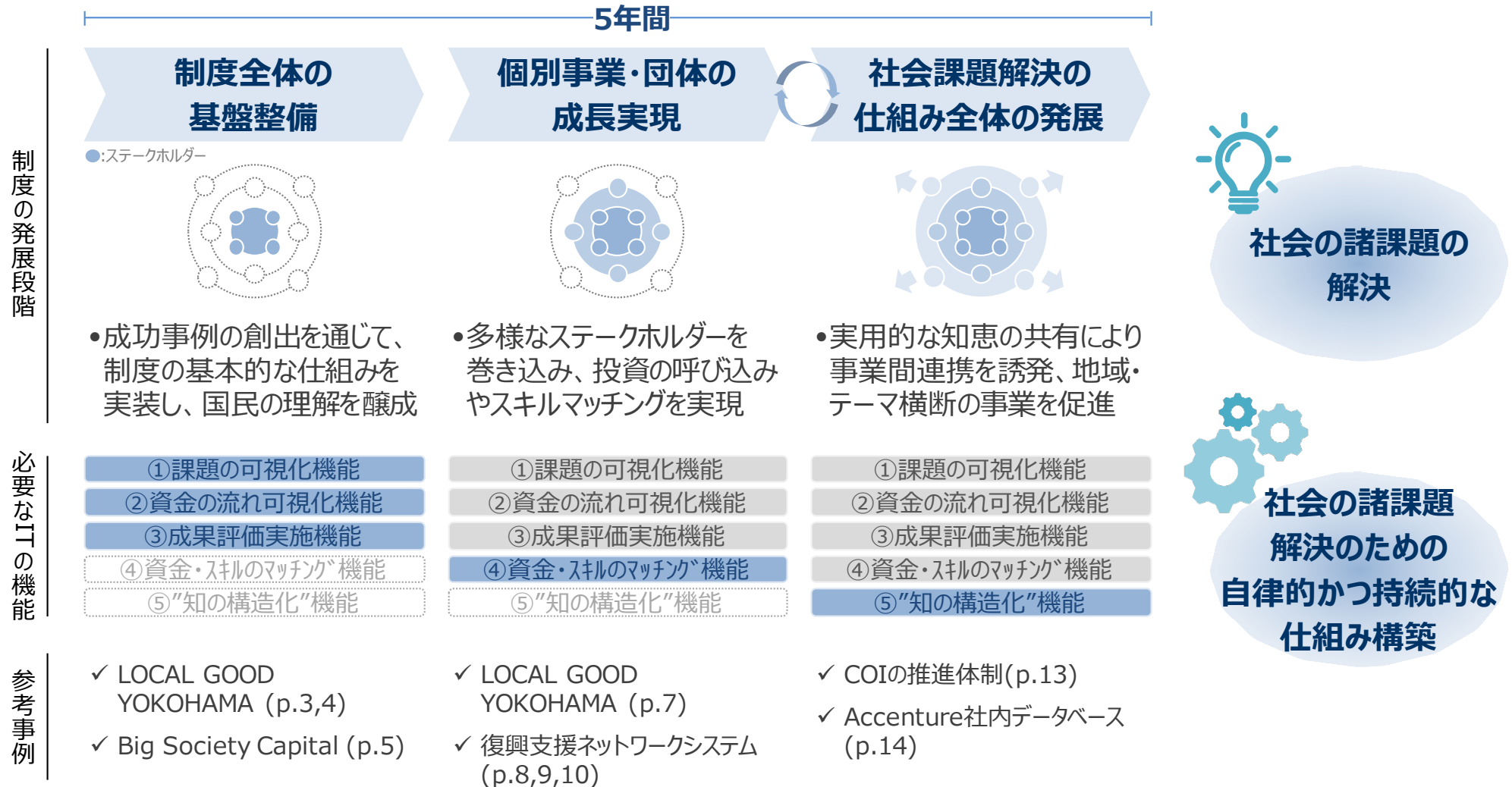


1. 成果の実現を下支えするICTに具備すべき機能

休眠預金の活用を通じた成果実現に向け、ICTの仕組みとしては、まずは制度全体の基盤を下支えする機能を具備したうえで、個別事業や制度全体の成長・拡大に寄与する機能を整備していくことが重要と考える。



制度の発展段階

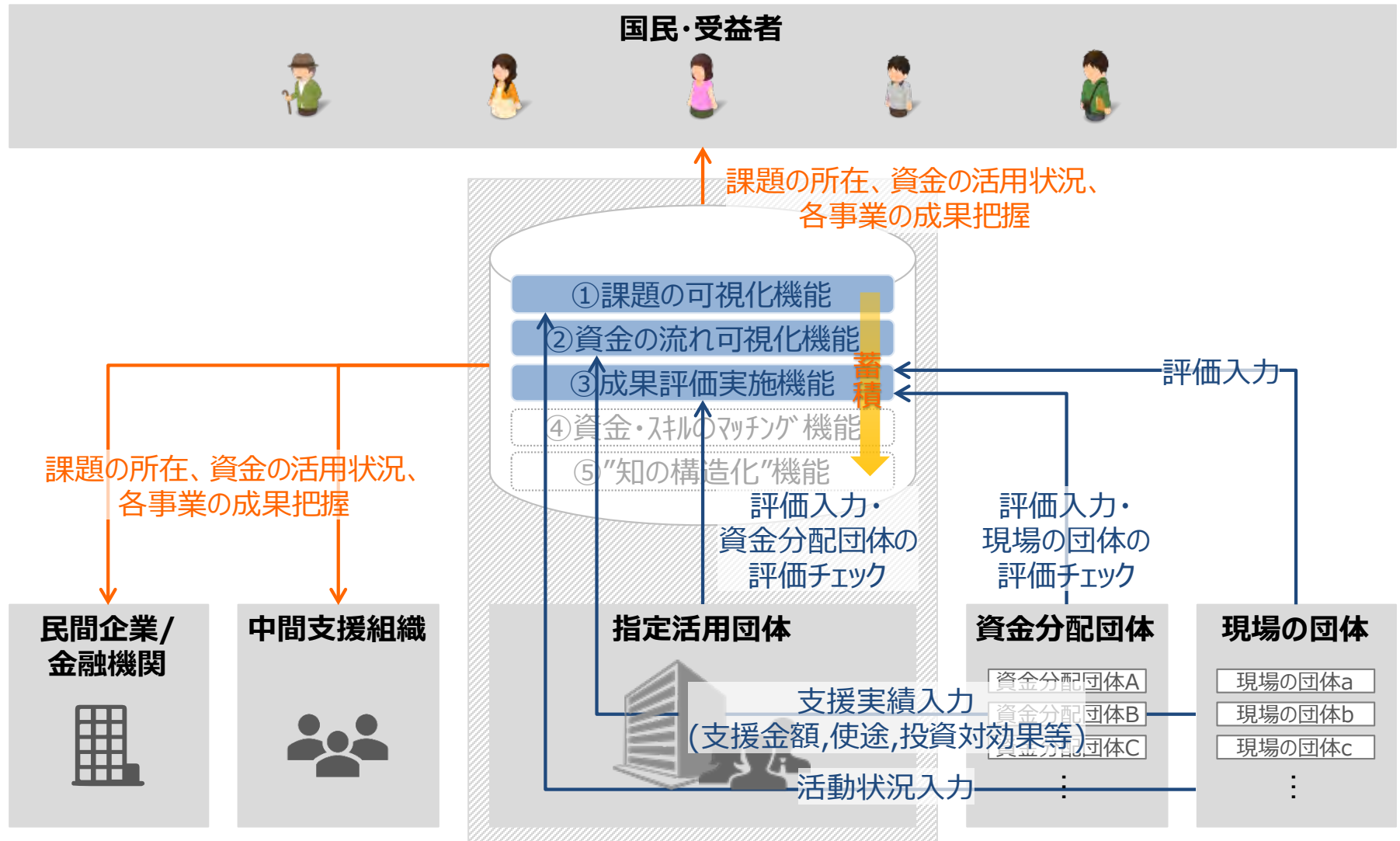
必要なITの機能

参考事例

2. 各機能の具体的イメージ (1)制度全体の基盤整備段階

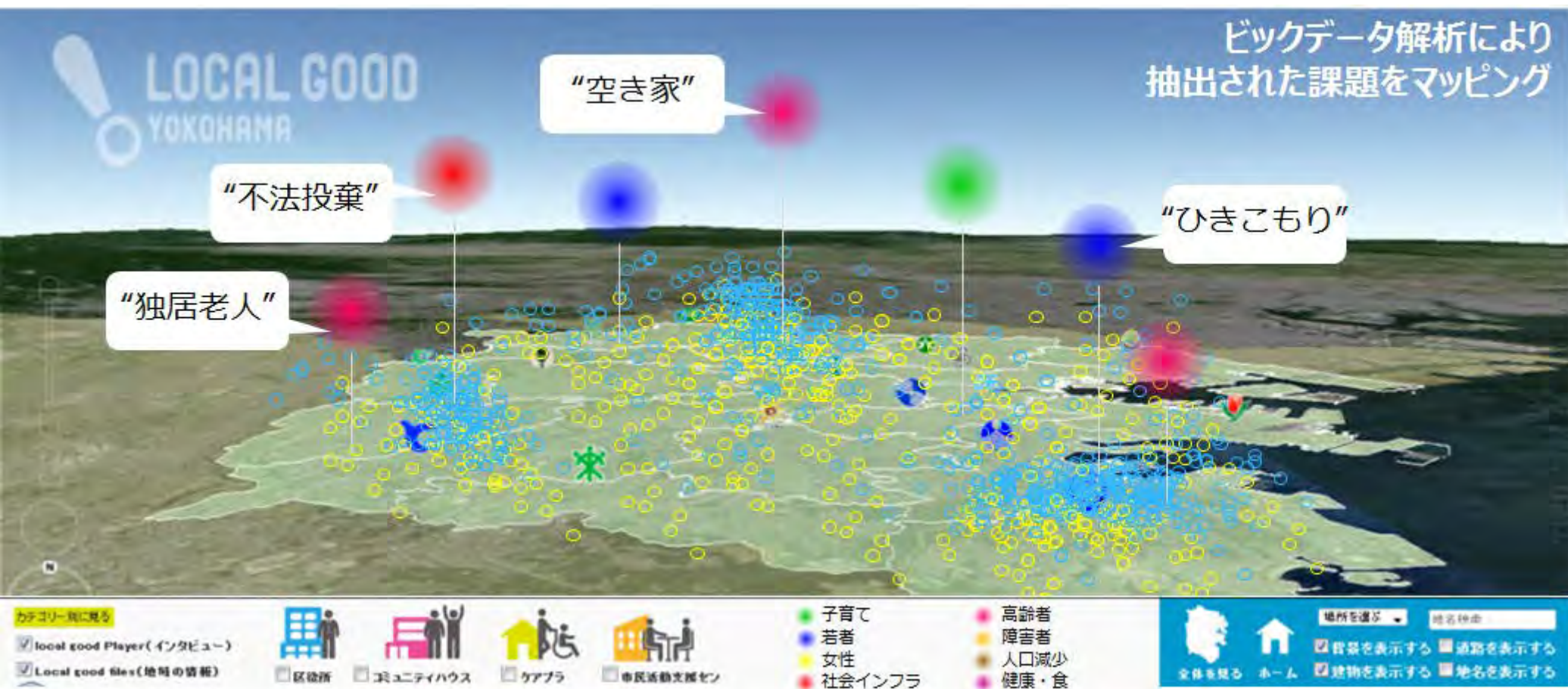
→ : Input
→ : Output

指定活用団体・資金分配団体・現場の団体から、活動状況や評価結果の情報を集約し、各ステークホルダーにわかりやすく情報を公開する。



2. 各機能の具体的なイメージ 《参考事例》LOCAL GOOD YOKOHAMA (1/2)

地域市民による課題解決プラットフォームのLOCAL GOOD YOKOHAMAでは、地域課題のありかや課題解決に取り組む団体を3Dマップで可視化。



2. 各機能の具体的なイメージ 《参考事例》LOCAL GOOD YOKOHAMA (2/2)

また、地域のデータを視覚的にわかりやすいかたちでサイト上にて公開。

キーワード 地域を知る 応援する 3Dマップ LOCAL GOOD

障がい者のスポーツ・レクリエーション実施への障壁

障がい者のスポーツ・レクリエーション実施への障壁

障がい者のスポーツ・スポーツレクリエーション実施への障壁となっている要因を示したグラフです。...

グラフ スポーツ

人口と犯罪から横浜を見る

区レベルでの比較

人口と犯罪から横浜を見る

【作品概要】 このグラフィックでは横浜市民の防犯意識を高めるために人口や犯罪の数や種類を表し...

インフォグラフィックス 地域の安心・安全

横浜市に20代を呼ぼう！

魅力のある街区へ

横浜市に20代を呼ぼう！

【作品概要】 今後、横浜市の人口は減少すると予想されています。その中で、特徴的な土地である西...

データビジュアライズ オープンデータ

災害への意識向上を目指して

災害分布と等高線データから見る津北区

災害への意識向上を目指して

【作品概要】 平成23年～平成25年に起きた大雨洪水、土砂崩れ、暴風系統の災害分布を表し、標...

横浜市交通事故件数

横浜市交通事故件数

・道路交通法の「道路上」での法規違反による事故数を集計したものの。・高速道路上での事故を除く...

横浜市生活保護費、人員、世帯数

横浜市生活保護費、人員、世帯数

・横浜市の保護率は平成25年度末、世帯3.2%、人員1.90%。・横浜市では生活保護者への...

休眠預金の仕組みにおいても、国民の関心喚起のため、社会課題の所在や解決に向けた取り組みをわかりやすく発信することが重要ではないか

2. 各機能の具体的イメージ 《参考事例》 Big Society Capital

Big Society Capitalでは、受益者、社会課題に取り組む団体、市場へのインパクトをホームページ上で公開。社会的投資市場やBig Society Capital自身の業績についても四半期ごとに公表している。

Impact on organisations

Social investment is a tool available to charities and social enterprises to build and grow their organisations.

We have aimed to build and share understanding of the use of repayable finance, as well as developing new products with partners that better address social need. In this section, we review the progress that has been made and the challenges that remain.



Employment, training and education

Providing opportunities for people to reach their potential



Summary

Education plays a fundamental role in young people's lives, influencing their opportunities now and in the future. But the attainment gap for pupils from less advantaged backgrounds remains huge. There is also a challenge equipping young people with the skills needed for work and retaining older people to secure jobs in emerging industries.

Charities and social enterprises are using repayable finance to address these issues by delivering additional education programmes, preparing students for life after they leave the school system, connecting people with jobs, supporting young people at risk of unemployment and providing training opportunities to people further from the labour market. Revenue is generated from both from selling products and services to consumers and business as well as directly contracting with government, sometimes through outcomes-based payments.

High quality impact measurement in this area is essential to help organisations sell services to commissioners, win business from employers and understand the relationship between impact and profitability. Metrics which appear to be used summarily focus on education, jobs created and sustained employment. We would like to see greater alignment and transparency about success and challenges of different organisations in this area. This will then inform decisions and

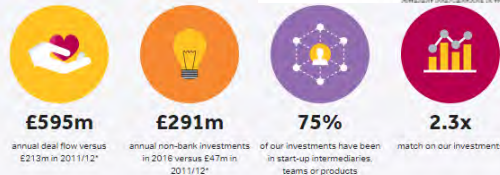
Impact on the market



3,500+
outstanding investments in charities and social enterprises

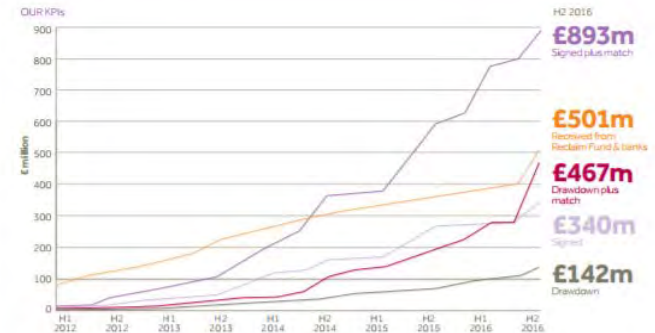
A series of recent government have aimed to connect investors to social enterprises so they can grow society.

This builds on a long history in the UK: part of these initiatives Big Society Capital investment from dormant bank accounts, the social investment market was by secured lending, with sub-scale investments from government and four. In this section we outline how the social since 2012 and highlight some of the



OUR INVESTMENTS

IN 2016 WE...



MONEY AVAILABLE TO CHARITIES AND SOCIAL ENTERPRISES

£893m
Cumulative amount of investment signed by Big Society Capital and our co-investors

Of this **£340m** is Big Society Capital's money

£553m is from our co-investors

Across **63** different investments

MONEY REACHING CHARITIES AND SOCIAL ENTERPRISES

£467m
Cumulative amount drawn down from Big Society Capital and our co-investors

Of this **£142m** is Big Society Capital's money

£325m is from our co-investors

This is how the drawdown has been used (we have based our calculations on Big Society Capital's drawdown):

PRODUCT TYPE

- 50% is capital for charities and social enterprises through funds and social banks
- 39% is in property, mainly to help charitable service delivery
- 4% is helping charities deliver services using Social Impact Bonds
- 4% is management fees paid to intermediaries
- 3% is capital for arrangers

ORGANISATIONAL FORM

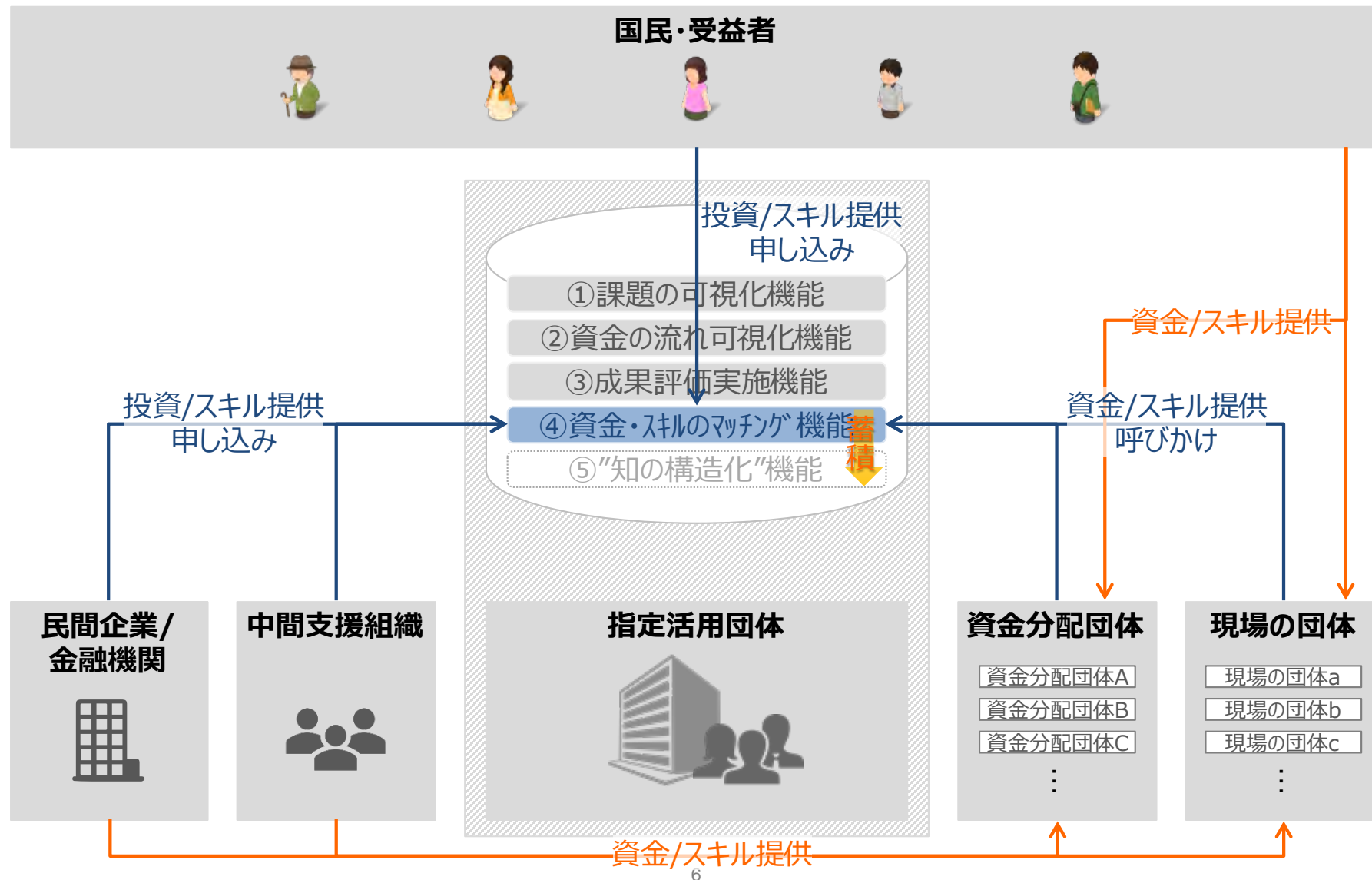
- 74% to asset locked charities and social enterprises
- 19% to non-asset locked social enterprises
- 4% is management fees paid to intermediaries
- 3% is capital for arrangers

休眠預金活用の枠組みにおいても、同様の情報公開をすることで、国民への説明責任を果たすとともに、民間資金流入に向けた投資家へのアピールともできるのではないかと

2. 各機能の具体的なイメージ (2)個別事業・団体の成長実現段階

→ : Input
→ : Output

システム上で資金やスキルのマッチングを可能とすることで、民間資金やスキル人材の流入を促進する。



2. 各機能の具体的なイメージ 《参考事例》 LOCAL GOOD YOKOHAMA

先述のLOCAL GOOD YOKOHAMAでは、クラウドファンディングやスキルマッチングをウェブサイト上で実施可能。

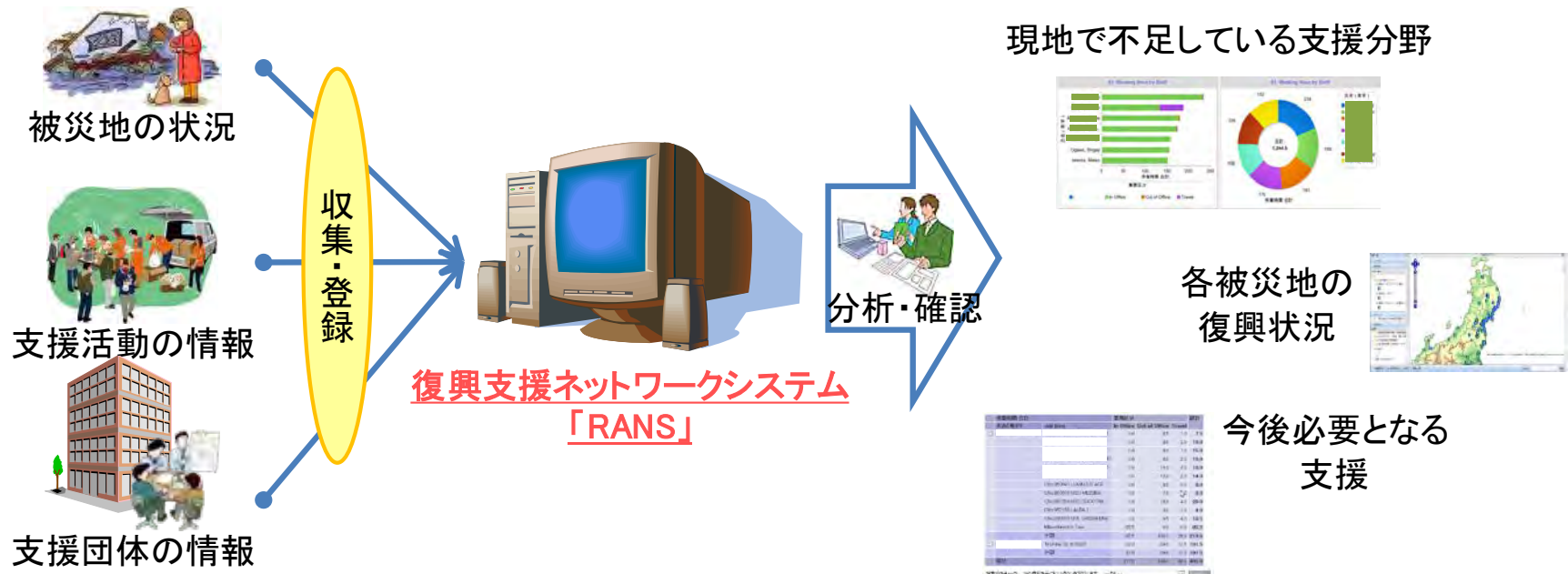


休眠預金活用の枠組みにおいても、
民間資金やスキル人材の巻き込みのため、同様の仕組みを実装することが効果的ではないか

2. 各機能の具体的なイメージ 《参考事例》復興支援ネットワークシステム (1/4)

「東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN) ※」では、震災発生時、ITの効率的な活用によってNPO等をはじめとする多数の支援団体間の連携を促進し、円滑に支援活動が行われることを目指しシステムを構築。

被災地の状況と支援活動の状況を登録し、分析することで 被災地の復興状況や必要となる支援が分かる



※ 東日本大震災の被災者支援に携わるNPO/NGO/企業などが参加する、セクターを越えた全国ネットワーク組織

2. 各機能の具体的イメージ 《参考事例》復興支援ネットワークシステム (2/4)

被災地に支援に行こうと思っている支援団体が、RANSを活用することによって、現地でより必要とされている支援や、支援予定地の現在の支援状況等を事前に知ることができるようになった。

システム活用前

被災地や支援活動の全体像がわからないため、活動計画の作成が困難。また、支援予定地の情報を手軽に収集できない



システム活用後

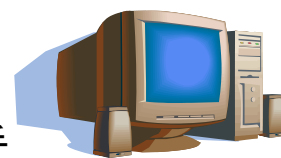
①支援に入る必要がある地域や必要な支援内容が簡単にわかる



支援が不足している地域や必要とされている支援活動についての情報が、JCNのニューズレター等で確認できるため、支援予定地の検討の助けとなる

②支援予定の被災地の情報やその地の活動団体の情報がわかる

システム内に管理されている被災地の情報と支援活動の情報を見ることで、支援予定地に係る情報を手軽に集められる



●●町でガレキの撤去がまだ足りないみたいだ！●●町にはNPOXXのXXさんがいるから連絡して行ってみよう！



休眠預金活用の枠組みにおいても、社会課題解決に向けた取り組みに必要な支援等を可視化することで、投資の呼び込みやスキルマッチングにつなげることができるのではないかと

現地で活動中の支援団体は、RANSを活用することによって、近隣の市町村にて活動している支援団体と簡単に連携が取れるようになった。

システム活用前

被災地が広範囲のため、同じ被災市町村にいる支援団体以外は接点を持つのが難しい



システム活用後

他団体の活動情報や連絡先を検索できる

復興支援ネットワークシステムには、支援団体情報とその活動情報が登録されているため、その情報を検索して、現地に入っている他団体や特定のスキルを持った団体の情報を検索できる

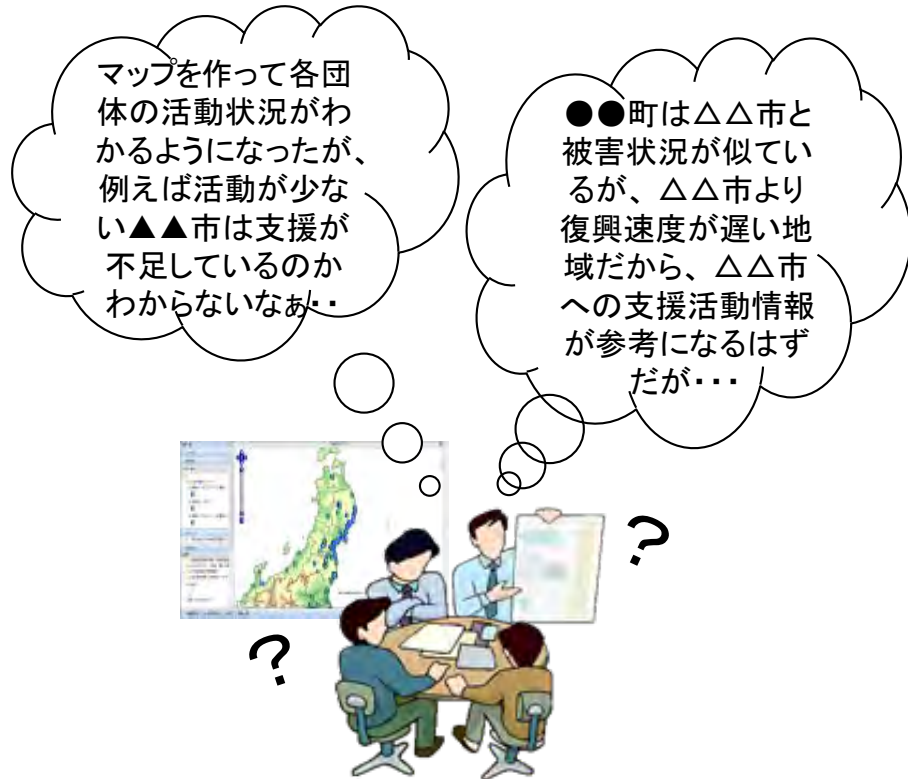


休眠預金活用の枠組みにおいても、他団体の取り組みに簡単にアクセスできるようにすることで社会課題解決に取り組む団体同士のコラボレーションが生まれ出すのではないかと

中間支援を行なっている支援団体等は、RANSの導入によって、被災地への支援状況及び被災地の復興状況の全体を俯瞰することができるようになり、より効果的な支援策を検討する一助となった。

システム活用前

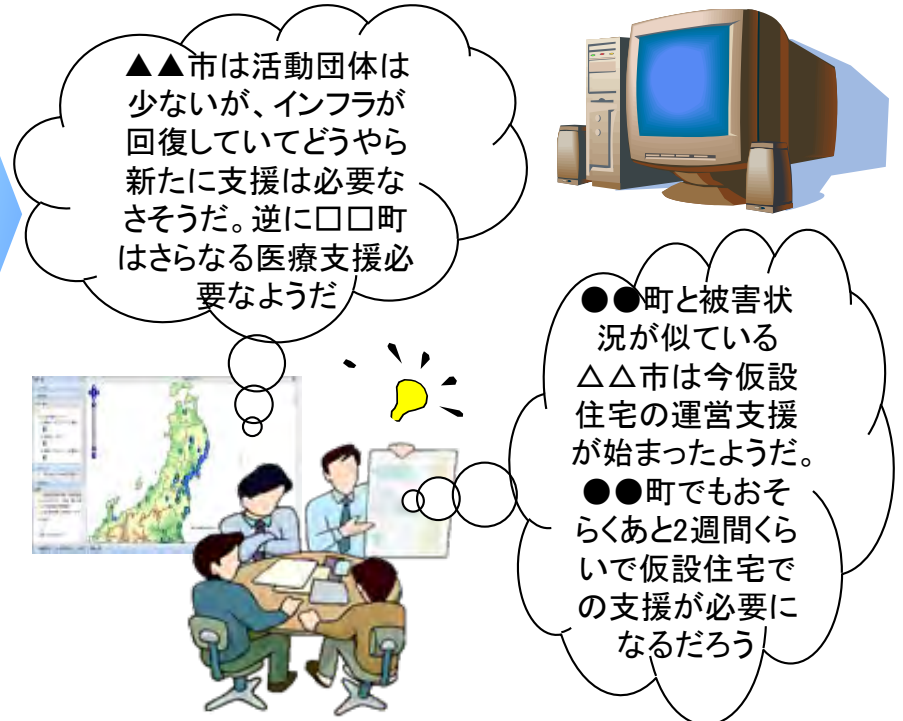
被災地ごとの復興状況や支援活動状況について、全体の様子が見えにくい



システム活用後

被災地の現状と支援活動情報の全体が俯瞰できる

支援の活動情報の全体を俯瞰して、各団体の支援状況や支援の濃淡が一目でわかるようになる

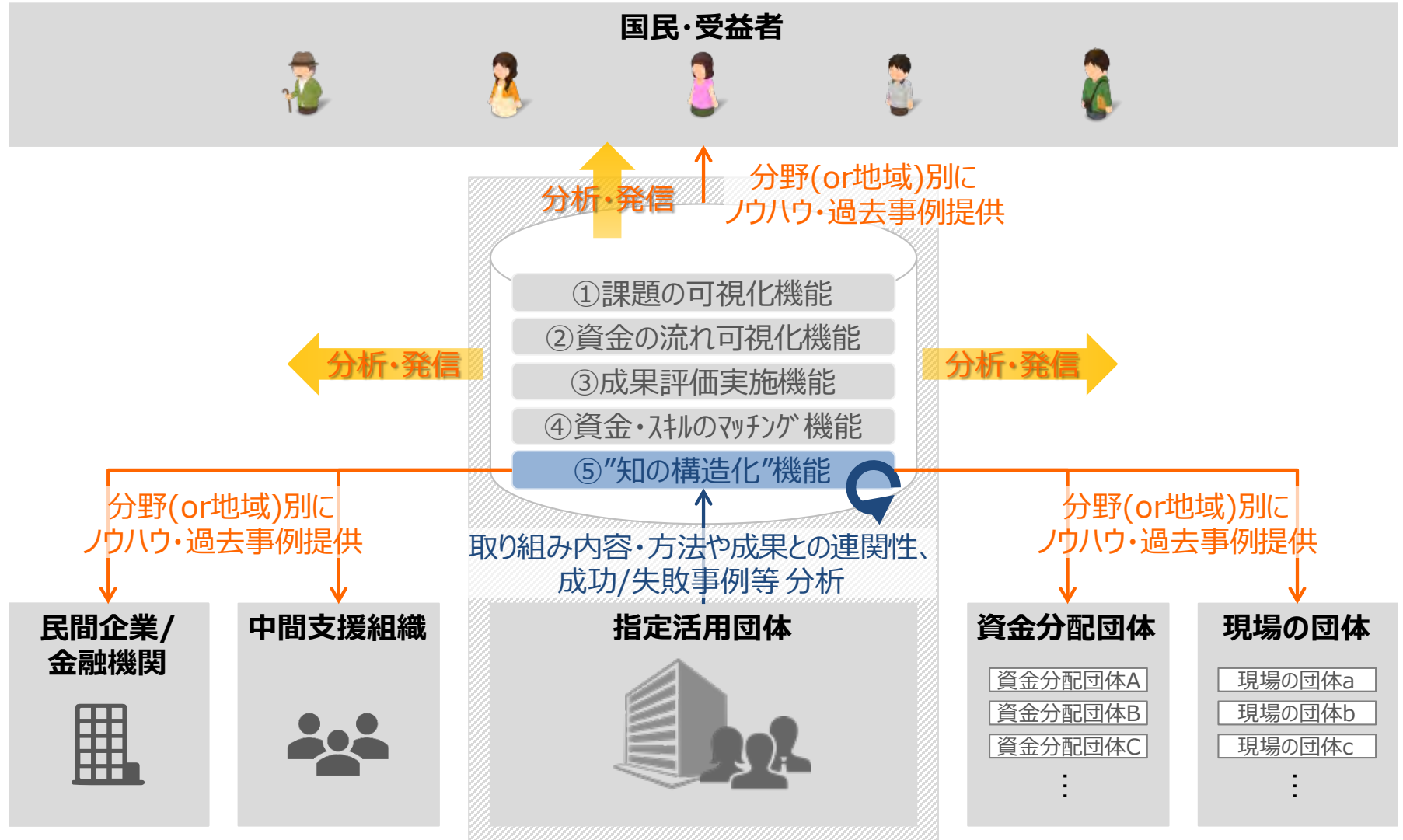


休眠預金活用の枠組みにおいても、取り組みの全体像を俯瞰できるようにすることで、中間支援組織や民間企業等の巻き込みにつながるのではないかと

2. 各機能の具体的なイメージ (3)社会課題解決の仕組み全体の発展段階

→ : Input
→ : Output

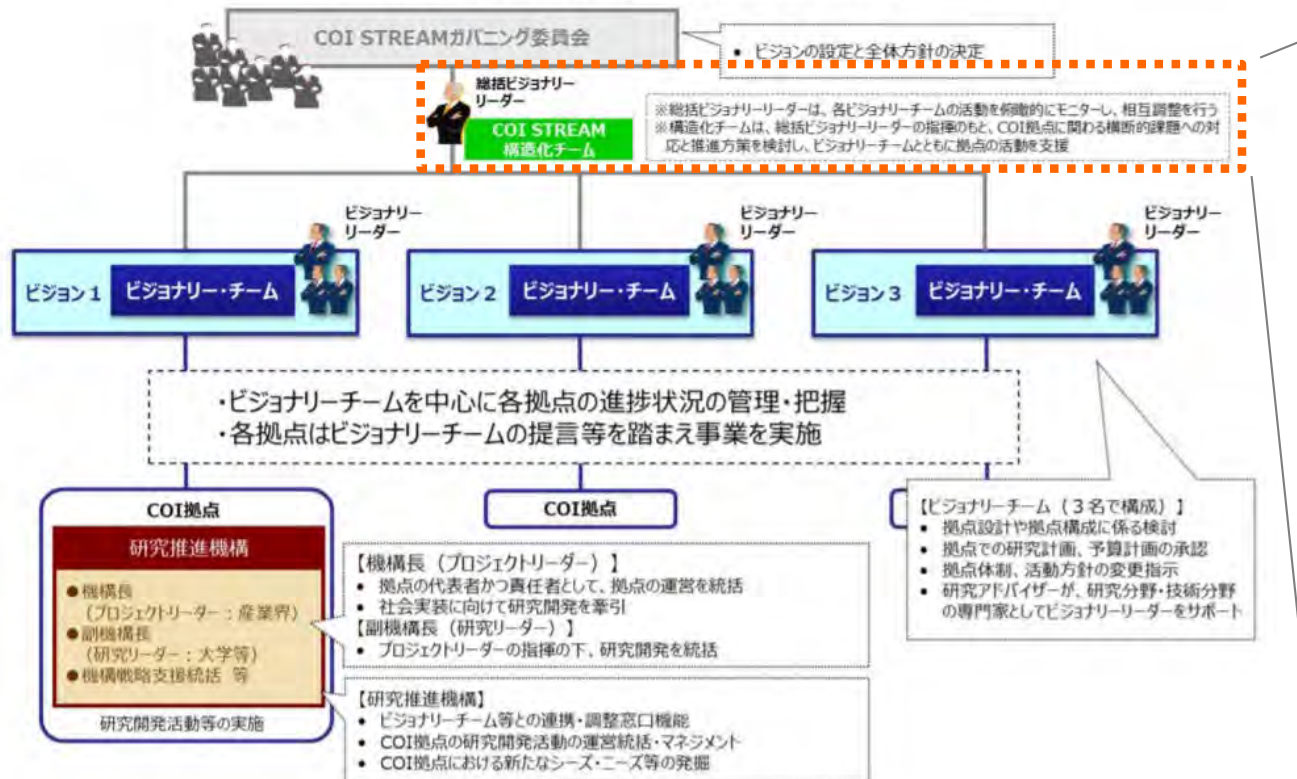
①～④の機能を通して蓄積したデータを分析し、社会課題解決の取り組みに役立つ知恵として各ステークホルダーへ発信、日本社会における社会課題解決の仕組み全体の発展に貢献する。



2. 各機能の具体的なイメージ 《参考事例》COIプログラムの推進体制

センター・オブ・イノベーション(COI)プログラムでは、チーム間の相互の連携調整や各チームの活動支援を行う「構造化チーム」が各拠点の活動状況の集約・分析と各チームへの情報連携を担っている。

COI STREAMの進め方（体制）



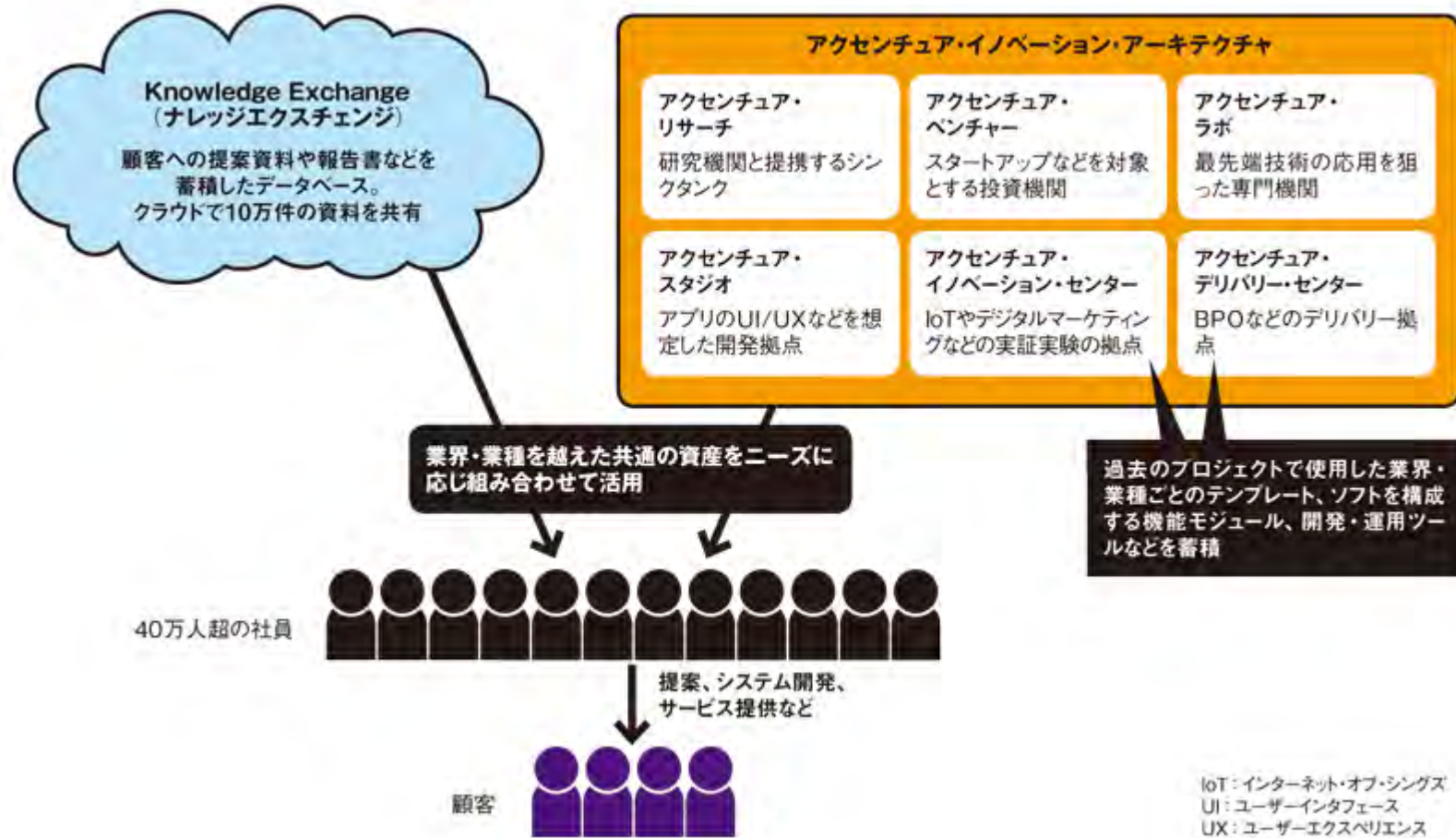
【構造化チームのミッション】

- 新たな将来ビジョン、革新的課題候補の抽出
- **各拠点の活動状況の集約・分析、活動の見える化**
(Webベースでのデータベース構築)
→ **ビジョナリーチームとの共有**
- 拠点のパフォーマンス評価のための指標抽出
- 各ビジョン、拠点間の連携の可能性抽出
- その他、ビジョン間、COI拠点間で共通する問題等について検討

休眠預金活用の枠組みにおいては、社会課題解決の取り組み全体を俯瞰し、活動に役立つ知見を発信していく基盤として、システムを効果的に活用してはどうか

2. 各機能の具体的なイメージ 《参考事例》Accenture社内のデータベース

アクセントゥアでは、過去のプロジェクトで使われた資料を蓄積するデータベースを保有。グローバルの先行事例や過去のプロジェクトで得られた知見等の共有・活用が可能な環境を整備している。



休眠預金活用の枠組みにおいては、過去の取り組みから得られた知見やノウハウを、制度内部に閉じず社会全体に発信していく機能を構築することが必要ではないか

3. 今後ICTの仕組みに求められるポイント

実際に活用され、制度自体の発展に合わせて進化していくICTの仕組みとするためには、下記のポイントをおさえることが肝要と考える。

双方向性

- システム利用者間の**双方向のコミュニケーション**を可能に

拡張性

- アジャイル方式の開発で、ユーザーの要求に合わせて**柔軟に・迅速に機能を拡張**
- オープンソースの活用で、様々な要件に応じた**カスタマイズ**を実現

軽さ

- クラウドの活用で、**動作が軽く、安価なシステム**を実現
- また、**いつでもどこからでもアクセス可能**に

アクティブさ

- SNS等との連携・活用により、ユーザーの**能動的な発信**を活発化